



TITLE:

会員動静

AUTHOR(S):

CITATION:

会員動静. 日本外科宝函 1954, 23(6): 653-653

ISSUE DATE:

1954-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/206132>

RIGHT:

in Progress in Neurology and Psychiatry, Vol.
6, New York, 1951, 5) WADA, H. : Concerning

Allergic Origin of Spontaneous Gangrene, Jap
Circul. J., 14, 265, 1951.

和 文 抄 録

特発性脱疽の経過中に発生した急性播種性脳脊髓炎の 1 例

京都大学医学部外科学第 1 講座 (荒木教授)

星 野 列

49才の男子。特発性脱疽の治療のため、頸動脈球剔除並に腰部交感神経節切除を受けて入院中、突然に失明、左顔面神経下枝麻痺、軽度の嚥下困難、第四胸髄節以下の脊髓横断症状を発生し、約3ヶ月後に各症状とも可成りの程度迄回復して退院した。

中枢神経系の脱髄性疾患の原因としてアレルギーが重視され、一方、特発性脱疽の原因としてもアレルギーが関心を持たれて居る。此の点から言つて、両疾患の合併は興味あるものと考えられる。

会 員 動 静

吉 峰 泰 夫	高松市天神前一四一の五 高松赤十字病院整形外科
飯 田 茂	三重県一志郡川合村大字八太九九二
岡 田 守	大阪市北区西扇町三 北野病院外科
小 田 忠 良	京都大学外科学教室
大 谷 博	京都大学外科学教室
加 藤 宏	京都大学整形外科外科学教室